

2013年1月17日

2013年 イビデン株式会社 賀詞交換会

2013年1月17日(木)午前11時より、イビデン株式会社(本社:岐阜県大垣市、代表取締役社長:竹中裕紀)は、2013年の賀詞交換会を大垣フォーラムホテル(大垣市万石)において開催し、お取引先様約450名様にご参加をいただきました。会では竹中社長の挨拶に続き、日立ビアメカニクス株式会社 四津代表取締役社長より乾杯のご発声をいただきました。和やかな雰囲気の中、会は進行し、参加者の皆様との交流を深めました。

◆竹中社長挨拶(要約)

昨年の世界経済は欧州の経済危機、そして中国などの新興国の減速で低迷しました。しかし年末の政権交代以後、円安株高に向かい、先行きは未だ不透明なものの、徐々に明るさの見える年末年始でありました。

当社は昨年11月に創立100周年を迎えることが出来ました。これもひとえに、関係者各位のご支援の賜物であり、深く感謝申し上げます。創立100周年を記念し、当社は企業理念「イビデンウェイ」と「ブランドロゴマーク」を刷新いたしました。100年を超えて当社が発展し続けるためには、日本生まれのグローバル企業として、全員参加で、多様な英知を結集することが必要不可欠です。そのため、新しいブランドロゴマークに「イビデンウェイ」の「共有すべき行動精神:和」と、さらなる高みへとスパイラルアップする姿をイメージしました。

さて、2012年の当社の事業環境について振り返りますと、電子関連事業におきましては、スマートフォン・タブレットPC市場は期待通りの成長を遂げたものの、そのあおりを受け、パソコン市場は一昨年来、長らく低迷しています。その結果、スマートフォン・タブレットPC向けパッケージ基板、プリント配線板は好調に推移しましたが、当社主力のパソコン用パッケージ基板は大減産となりました。電子関連事業全体では減収の見込みです。セラミック事業におきましても、日系自動車販売台数は回復に向かいつつあるものの、当社の主戦場である欧州自動車市場において減速した結果、厳しい現状であります。

リーマンショック前までは、技術力、生産キャパを用意することで、事業を拡大することの出来る右肩上がりの時代でした。しかし、現在は高性能・高品質を維持しながらも、低コスト(価格)でなければ、市場で勝残ることが出来ません。そのため、2013年は、為替の動向を見ながらグローバルで最適地生産を行うとともに、生産現場そのものの力を強化していくことが必要不可欠です。

2013年も上記の通り、引き続き厳しい状況が予測されます。お取引先様におかれましても、今まで以上のご理解、ご支援を賜りますようお願い申し上げます。

以上